

NGP組合員 かわら版

ヘッドランプ補修技術研修を開催 顧客のニーズに応える、 高品質な補修技法を習得



ヘッドランプ補修技術研修が6月28・29日の2日間、(株)あいおいニッセイ同和自動車研究所・埼玉センター（埼玉県さいたま市）で開催されました。

1日目は、ヘッドランプの構造及び各部位の役割、光源やプラスチックの種類と特徴について学びました。その後実施したハウジング支持部の補修実習では、高い強度を確保するための知識と技術を習得しています。

2日目はヘッドランプレンズの補修を実習しました。損傷状態などによる補修

可否の判断基準について説明を受けた後、実際に損傷したヘッドランプレンズを補修しています。各作業ごとにその目的や手順についての解説がなされ、参加者はいかに効率的に高品質な補修ヘッドランプを生産することができるかを考えながら作業を進めました。

受講後の感想で、(株) 拓殖商会の小倉彰人さんは「実際に作業してみると、想像していたより難しく、数をこなさなければ上手にならないことを実感しました。今後、色々な方法を実践していきたい

と思います」と、研修の経験を活かし、自身の技術力向上に向けて意欲を高めていました。(株) テラダパーツの神谷文博さんは「今まで商品として登録できなかったものを、しっかり商品として活かしていくことは生産管理者の醍醐味だと感じているので、ぜひ今後も実施していきたいです」と、研修で得た知識と経験を今後の業務に活かしていく構えです。

第3回管理者研修を開催 会社を守るコンプライアンスの重要性や、 人材教育の大切さを学ぶ



7月11～13日の3日間、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で第3回管理者研修会が開催されました。

管理者研修会は部門の責任者を対象としたもので、社内で発生したイレギュラーな事態などに対し、経営者が不在であっても適切に対処できる社員を育成することを目的として、カリキュラムを構成しています。

1日目は工場業務におけるコンプライアンスについて、自動車リサイクル法や廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）、安全作業、防火管理などに関する近年の法改正の内容や、適切な対応方法を学びました。2日目は労務管理や安全管理、公害防止など、社会的な要求が高まっている各種法規制への対応を確認しています。さらに、幹部社員の役割や会社が期待すること、管理帳票の活用方法など、幅広い知識の習得に努めました。

そして最終日には、管理者として部下を教育する重要性やマネジメント能力について学習しています。

修了式では、「標準作業書の内容が現在の業務と合致しているかを確認し、各責任者との修正、社長の承認を得た後、社員教育に活かしていきます」（(株) 桃太郎部品、伊達泰秀さん）、「社員のモチベーションを高め、改善すべき反省点を改め、目標達成に努めます」（(有) 西川商会、高田隼人さん）、「管理職として、常に前向き、常に平常心で、常に模範となるように、率先垂範していきます」（(有) オートリサイクルナカシマ福岡、澤田仁さん）、「現在の地位に満足せず、一生涯、成長・努力・勤勉の意識を絶やしません」（(有) オートリサイクルナカシマ福岡、篠原巧さん）と、今後の業務に向けた決意を表明しています。

また研修終了後の感想で、(株) ライズコーポレーションの工藤和幸さんは

「立場が近く向上意欲を持ったNGPの仲間と出会い、交流する中で多くの刺激を受けました。NGPマン心得である“相互に切磋琢磨し、互いに成長せよ”の言葉を実感する研修でした」と、仲間の存在が自身の変化、成長につながることを強く認識しています。(有) オートリサイクルナカシマ福岡の瀬戸慎一郎さんは「今回の研修を通して、管理者には目標に対し方向性を見極め、常に進捗確認及び改善していくことや、自身の考えや発言、行動が間違っていないか冷静に見つめ直すこと、様々なことにチャレンジして多くの知識を身につけ、視野を広げることなどが必要であると実感しました」と、管理者のあり方について、認識を新たにしています。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp/>

30th Anniversary



2017 No.317 8月号

News

全国整備工場の皆様へ
NGP組合員200拠点がお届けする
お役立ち情報

2017年8月19日発行
■発行責任者/佐藤幸雄 ■編集・制作/(株)プロトリアス
■発行/(株)NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200

定価/1部30円

自動運転技術を取り巻く環境の変化

自動車業界内外を巻き込み 激しさを増す自動運転技術開発競争 アフターマーケットの対応は

自動車基準調和世界フォーラムにおいて、2014年に自動運転分科会が、2015年に自動操舵技術に関する基準を検討する会議が設置されるなど、自動運転の実用化に向けた国際的な枠組みの構築が進められています。

国内においても、自動走行等の実証実験を迅速に実施するため、国家戦略特区における事前規制・手続きを見直す改正案が閣議決定されるなど、自動運転技術の実用化を促進する各種施策が推進・検討されています。内閣に設置されたIT総合戦略本部が提示する「官民ITS構想・ロードマップ」では、2016年まではレベル0～4までの5段階としていた自動運転レベルの定義に関して、2017年よりレベル0～5までの6段階へと変更しており、欧米各国と足並みを揃えることで、国際的な標準化等の議論との整合性を図っています。また同ロードマップは、2020年に自家用車のレベル3及び限定地域での無人自動運転移動サービス（レベル4）、2025年に高速道路での完全自動運転（レベル4）市場化・サービ

ス実現を目標として示しています。

カーメーカー各社においても、自動運転技術に関連する動きは加速しています。

トヨタは2016年、人工知能技術の研究・開発の拠点となるトヨタ・リサーチ・インスティテュートと、車両から得られる情報の集約と解析をマイクロソフトと共同で行うトヨタ・コネクティッドをそれぞれアメリカに設立しています。また、交通事故死傷者の低減を目指し北米の大学や病院、研究機関等と共同研究することを目的として2011年に設立した「先進安全技術研究センター」において、自動運転やコネクテッドカーの課題や可能性について集中的に研究を進めると発表しました。今年に入ってから、コネクテッドカー分野における技術開発・検証を目的としたNTTとの協業や、AI技術に強みを持つ半導体メーカー・エヌビディア、AI技術ベンチャー企業・ナウトとの提携が発表されるなど、各種技術開発に向けた体制作りを進めています。

日産は2015年からアメリカ航空宇宙局（NASA）と自動運転システムに関する共同研究・開発を開始しており、今年1月にはその成果である自動運転技術実用化の早期化に貢献する技術「シームレス・オートノマス・モビリティ（SAM）」を発表しました。2016年にはコネクテッドカー技術の開発においてマイクロソフトと提携、2017年には無人運転車の開発を目的とした実証実験をディー・エヌ・エーとともに進める計画を示しました。またイスラエル

に本拠を置くモビルアイとも、自動運転用地図の生成において協力体制を築いています。

ホンダは、グーグルのグループ会社で自動運転に関する研究開発を手掛けるウェイモと共同研究を進める方針を2016年末に発表しています。

自動運転車の実現を目指した動きが勢いを増す一方で、市場投入された後の課題に関しては、事故発生時の責任関係やサイバーセキュリティなど一部の検討に留まっています。仮に自動運転車が登場したとして、車両の不具合はネットワークを介して遠隔で監視できるかもしれませんが、故障部位や消耗品の交換などの実作業は不可欠です。またいかなる技術が採用されようとも、基本的な運動性能である「走る・曲がる・止まる」の確保は必要で、設備機器を備えた工場と専門知識を有した技術者が各種整備作業に対して担う役割の重要性は変わりません。むしろ自動車の走行においてシステムがカバーする範囲が広がるほど、車両の状態を正確に点検し、必要な整備を的確に実施するアフターサービスを求める声は大きくなるのではないのでしょうか。

現在、先進安全装置を含む各種自動車技術の進化を受け、整備技術の高度化に向けた検討が進められています。さらに高いレベルの自動運転技術が市場に投入される前に、整備情報の提供を含めた各種課題の解決に向けて、自動車業界全体で臨む必要があるでしょう。



NGP組合員探訪 **【第6回】** 東海支部 (その1)

今回は全国 142 社 186 拠点の NGP 組合員の中から、東海支部に所属する 4 社をご紹介します。

(有) 名古屋解体メカイパーツ



NGP代表
吉村 昌治

1974年創業、1987年4月にNGPグループへ加入し、40余年が経過致しました。

豊かな経験と、豊富な知識を基に、全国のお客様に喜んでいただける商品をより正確により早くご提供できるよう、日々努力しております。環境への配慮が強く求められる今日、これからの車社会のために、地球のために、21世紀にふさわしい企業として「地球環境にも財布にもやさしい」をモットーに、トータルカーリサイクルターミナルを目指しております。

弊社の強みは即答です！ 回答はお待ち致しません！是非、お問合せ下さい！お待ちしております。

【所在地・お問い合わせ先】

愛知県名古屋守山区下志段味落合376
TEL : 052-736-4741 FAX : 052-739-1147
<http://www.ngp.gr.jp/k601/>

(株) コマゼン



NGP代表
駒屋 吉明

1985年に創業、NGPグループへの入会は1987年5月、名古屋市内・愛知県西部を商圏としています。

弊社の社は「共に活かし合う～商売は三方よしを実現する喜会とすべし～」を理念に、商売を通してお客様・仕入先・自社の三方が共に喜びを創造する機会となるように日々努めております。また、事業規定を「車の価値の再発見業」とし、車の可能性を追求できる会社を目指し、次世代自動車の情報共有をはじめ、中古車リースや車のラッピング、エンジン単品の入札会等、新たな取り組みにも挑戦しています。皆様のお役に立てるよう全社一丸となり頑張っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

【所在地・お問い合わせ先】

愛知県弥富市楠1-26-2
TEL : 0567-68-4182 FAX : 0567-68-4183
<http://www.ngp.gr.jp/k602/>

(有) 富士クラッチ工業所



NGP代表
藤村 博志

当社は1966年の創業当時よりクラッチ及びブレーキのリサイクル部品製造を手掛け、その後2005年7月にNGPへ入会致しました。三重県内はもとより近隣都市のお客様に対応するため、日々社員一同努力しております。

当社は車検部品・リビルト部品・リサイクル部品販売を主に、整備や機械加工など自動車補修におけるあらゆるものをお客様に提供することで「お客様第一」を実践致しております。これからも自動車部品関連のトータルサプライヤーを目標として、商品知識の向上・在庫点数の充実を図り、お客様に選ばれる会社に成長して参りますのでよろしくお願い致します。

【所在地・お問い合わせ先】

三重県四日市市河原田町1730-2
TEL : 059-325-6623 FAX : 059-325-6627
<http://www.ngp.gr.jp/k617/>

(株) マーク・コーポレーション



NGP代表
松原 佳代

当社は2006年に創業し、2017年5月にNGP正会員となりました。三重県鈴鹿市を中心に、県内外の幅広いお客様とお取引させていただいております。

創業当時よりコンプライアンス、手バラシ解体を徹底し、精緻な自動車リサイクルを推進して参りました。社会貢献としては、ショールームや会議室を設け、小学生を中心に年間3,000名程度の見学者を受け入れ、環境事業や3Rの啓発活動を行っております。

正会員になって間もないですが、今まで以上にお客様第一・品質管理を徹底し、満足していただける部品をお届けできるよう努力して参ります。

【所在地・お問い合わせ先】

三重県鈴鹿市伊船町鈴木田531-1
TEL : 059-371-6330 FAX : 059-371-6660
<http://www.ngp.gr.jp/k618/>

【第7回】

高品質な商品の
安定供給を支える
NGPの「検査基準」

今回は、NGPリサイクル部品の品質を支える「検査基準」についてお話しします。

NGPでは、「エンジン」、「トランスミッション」、「ターボチャージャー」、「コンプレッサー」、「A/Cコンプレッサー」、「パワステポンプ」、「スターター」、「噴射ポンプ」、「キャブレター」、「スロットルボディ」に対して、リサイクル部品生産時における検査基準を設け、徹底した品質管理を行っています。

一例としてエンジンに対する検査を挙げると、まず車両を引き取った後、スキャンツールを用いてエラーの有無を確認し、その後コンプレッション測定、ヘッドガスケット抜けの確認、

スラッジの状態の確認などを実施しています。検査項目及び検査方法が厳密に定められており、それぞれの検査に合格した部品のみが商品となります。

検査基準は、NGPの商品管理委員会で常に見直しが行われており、自動車技術の変化により検査基準が適切ではなくなった場合には、適時アップデートを行っています。また、先進安全技術の登場やパワートレインの変化などにより、新たに登場した自動車部品に関しても、どのような検査基準を設けて運用していくか、今まさに議論が重ねられています。

NGPでは各種会議や研修などを開催し、組合員が集まり話

し合う機会を多く設けています。それぞれの組合員が業務で得た情報を交換することで、NGP全体でノウハウを蓄積していくことが可能となります。そのノウハウが新たな検査基準など、NGPの品質を支えるルール作りにつながっています。30年の歴史と組合員同士の連携によって蓄積された各種ノウハウは、NGPの大きな強みと言えるでしょう。

今後もNGPでは自動車の変化に応じた検査基準のアップデートを継続し、高品質なリサイクル部品を安定供給して参ります。(続く)

NGP組合員
かわら版

NGP戦略会議を開催
業界の課題について議論し
今後の事業計画を検討



7月20・21日の2日間、NGP執行部の理事、委員長、顧問、相談役が華鳳(新潟県新発田市)に集まり、今後の運営方針等を話し合う戦略会議を開催しました。

会議では各支部担当理事及び各委員会委員長が4班に分かれ、将来ビジョンや今後の取り組み方針、現状の課題と解決策などをテーマとしたグループ討議を実施しました。最終日の21日には各班がそれぞれのテーマに関する具体策などを発表し、その内容について参加者全体で再度議論を重ねることで、より具体的かつ効果的な事業計画へと磨き上げています。

佐藤理事長は「執行部が中心となって各種施策を展開していきます。アフターマーケット全体の発展が、我々の成長につながることをしっかりと認識し、取り組みを進めていただきたい」と、今回討議された内容を今後の取り組みに活かしていく姿勢を強調し、会議を締めくくりました。

また、21日には4～6月の3ヵ月間にわたって開催した、「NGP30周年ありがとうキャンペーン」の抽選会を行い

ました。皆様からお送りいただいた応募用紙の中から、佐藤理事長と長谷川会長が抽選を行い、当選者を決定致しました。なお、抽選の結果につきましては、賞品の発送をもってかえさせていただきます。お送りいただいた応募用紙の総数は7,146枚に上りました。たくさんのご応募、誠にありがとうございました。

当キャンペーンが皆様から大変なご好評をいただきましたため、本年の年末ジャンボ宝くじを対象とした同様のキャンペーンを9月より開始することが決定致しました。キャンペーンの詳細につきましては、組合員までお問い合わせいただければ幸いです。年末のキャンペーンにつきましても、皆様からのご応募を心よりお待ちしております。



抽選を行う
佐藤理事長



抽選を行う
長谷川会長



キャンペーン
第二弾開催決定

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

平成29年6月: **2,887t**



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

平成29年6月: **8.6t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の50品目(左右ある部品を含む)と64品目を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。